

★ タバココナジラミバイオタイプQ幼虫の

殺虫剤感受性検定の結果について★

府内の施設野菜類において、タバココナジラミの多発が問題になっています。本種は作物を直接吸汁して加害するだけでなく、トマトやキュウリの病原ウイルスを媒介します。

タバココナジラミには複数のバイオタイプ*が存在し、特にバイオタイプQでは薬剤感受性の低下が報告されています。また、令和4年度に病虫害防除所が行った調査でタバココナジラミの発生ほ場の全てでバイオタイプQの発生を認めました。そこで、タバココナジラミバイオタイプQの幼虫の殺虫剤感受性検定を実施しましたので、その結果をお知らせします。

※バイオタイプ：外観で区別できず、遺伝子型や生物学的特性が異なる系統

1 タバココナジラミバイオタイプQ幼虫の殺虫剤感受性

令和4年に京都府南部の施設トマトから採集して累代飼育した系統の3齢幼虫に対する殺虫剤の殺虫効果を調べました。その結果、補正死虫率が90.0%以上(◎)となった薬剤は、ディアナSC、アグリメック、アニキ乳剤、コロマイト乳剤、グレーシア乳剤でした(表1)。本虫の殺虫剤感受性は薬剤の種類及び発育段階により異なるため、成虫の殺虫剤感受性検定を予定しています。

2 防除上の注意事項

- (1) 開口部すべてを0.4mm目合いの防虫ネットで被覆してください。
- (2) 黄色粘着ロールを開口部やハウス内に展張してください。
- (3) 近紫外線カットフィルムを使用してください。
- (4) 育苗期及び発生初期の防除を徹底してください。
- (5) 薬剤で防除する場合は、葉裏までかかるようにていねいに散布してください。
- (6) 同一系統の薬剤の連用は薬剤感受性の低下につながるため、ローテーション防除を実施してください。
- (7) ハウス内やその周辺の雑草や野良生え作物は適切に除去してください。
- (8) 捕食性天敵、微生物農薬を有効利用してください。
- (9) 黄色粘着板を吊り下げて、コナジラミの発生を把握してください。

※農薬の使用に当たっては、ラベル及び最新の使用方法や注意事項を必ず確認してください。また、各薬剤の使用回数を守るとともに、同一成分を含む農薬の総使用回数についても注意してください。

表1 タバココナジラミバイオタイプQ3齢幼虫に対する各種薬剤の殺虫効果

IRAC コード	農薬名	殺虫効果	希釈倍率※1	(参考)コナジラミ類への農薬登録の有無※2				
				トマトきゅうり	とうがらし類	甘長 とうがらし	なす	
4 A	ベストガード水溶剤	×	1000	○	○	○	○※3	○
4 A	アルバリン顆粒水溶剤	△	2000	○	○	○	○※3	○
4 A	モスピラン顆粒水溶剤	×	2000	○	○	×	×	○
4 C	トランスフォームフロアブル	×	1000	○	○	×	×	○
5	ディアナSC	◎	2500	○	○	×	×	○
5	ダブルシューターSE	○※4	1000	○	○	○※5	○※5	○
6	アグリメック	◎	500	○	○	×	×	○
6	アニキ乳剤	◎	1000	○	○	○	○※3	○
6	アフーム乳剤	○	2000	○	○	×	×	○
6	コロマイト乳剤	◎	1500	○	○	×	○	○
9B	コルト顆粒水和剤	×	4000	○	○	○※6	○	○
21A	ダニトロンフロアブル	○	1000	○※7	×	×	×	×
23	クリアザールフロアブル	○	2000	○	×	×	×	×
28	ベネビアOD	○	2000	○	○	×	×	×
28	ヨーバルフロアブル	×	2500	○	○	×	×	○
30	グレーシア乳剤	◎	2000	○	○	○※5	○※5	○
34	ファインセーブフロアブル	×	1000	○※7	×	×	×	○※7
-	サンクリスタル乳剤	×	300	○	○※8	○※8	○※8	○

◎：死虫数が90.0%以上、○：70.0～89.9%、△：50.0～69.9%、×：49.9%以下

※1 供試した希釈倍率である。

※2 各薬剤の登録の有無は令和6年3月29日現在のものである。

※3 とうがらし類への登録

※4 ダブルシューターSEは有効成分について個別に試験を行った。

※5 ピーマン及びとうがらし類への登録

※6 とうがらし類(甘長とうがらしを除く)への登録

※7 タバココナジラミ類(シルバーリーフコナジラミを含む)への登録

※8 野菜類(なす、トマト、ミニトマト、しゅんぎくを除く)への登録